

## 香川県多度津町でリーサスを活用した政策立案ワークショップを開催しました

平成31年3月

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

内閣府地方創生推進室

経済産業省四国経済産業局

香川県多度津町にて、産業振興及び地方創生に携わる職員等を対象に、「地域経済分析システム (RESAS)」を活用した政策立案ワークショップを下記のとおり開催しました。地域活性化の視点から専門家である青山社中株式会社 筆頭代表 CEO 朝比奈 一郎氏、同社グローバル事業担当 水野 貴充氏の協力を得て、多度津町における人口動態や産業の課題を抽出し、地域のステークホルダーとの意見交換を通じて、職員が地域経済分析に基づき、地域の実情に即したまちづくりのための体制構築について考える契機となりました。

### 記

1. テーマ：「交流人口（住む人・来る人）の増加～“<sup>たどりつく</sup>暮らす”まち多度津町～」
2. 日 時：平成30年12月26日(水) 13時00分～16時20分
3. 会 場：多度津町 町民健康センター2階 多目的ホール
4. 共 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府地方創生推進室  
経済産業省四国経済産業局
5. 参加者：
  - ・多度津町職員（町長、副町長、町長公室、建設課、税務課、住民環境課、健康福祉課、高齢者保健課、産業課、政策観光課、消防本部） 21名
  - ・青山社中株式会社 筆頭代表 CEO／内閣府クールジャパン・地域プロデューサー／総務省地域力創造アドバイザー／ビジネス・ブレークスルー大学大学院 客員教授 朝比奈 一郎 氏
  - ・青山社中株式会社 グローバル事業担当／一般社団法人日本と世界をつなぐ会 事務局長 水野 貴充 氏
  - ・金剛禅本山少林寺 宗務局布教課 課長補佐 細川 真志 氏
  - ・四国旅客鉄道株式会社 地域連携室 副室長 難波 恵美 氏
  - ・多度津駅周辺整備検討委員会 委員長 久保 洋亮 氏
  - ・多度津商工会議所 経営指導員 田窪 裕典 氏
  - ・多度津町まねきねこ課 課長 鈴木 尉継 氏
  - ・てつやの会 代表 日高 明道 氏

- ・ 一般社団法人つながりプロジェクト 代表理事 三木 佳代 氏
  - ・ おいでまい町家プロジェクト IN 香川 TADOTSU 代表 生田 真理子 氏
  - ・ 香川県職員（地域活力推進課、都市計画課） 3名
  - ・ 一般財団法人 百十四経済研究所 2名
  - ・ 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員 2名
  - ・ 経済産業省地域経済産業グループ職員 1名
  - ・ 経済産業省四国経済産業局職員 6名
- 計 45名

## 6. 議事次第

- ① 自治体職員によるリーサス分析結果発表
- ② 有識者によるデータ分析と意見
- ③ 政策ディスカッション

### 1. ワークショップ実施の背景

- 多度津町は香川県の中部に位置し、北に風光明媚な瀬戸内海を望む港町である。明治には四国最初の鉄道が開通し、港とあわせて西讃の交通における要衝として発展を遂げた。昭和49年には臨海部造成地に約50の企業を誘致することで、現在のような工業の町へと変貌した。
- 多度津町では社会人口が増加しているものの、その多くは町内の企業で働く外国人労働者であり、実際には若者や女性が都市や周辺地域に流出している。
- このような背景を踏まえ、これからの多度津町は、若者や女性目線で魅力的なまちづくりに取り組んでいくことが重要である。
- このような問題意識のもと、行政のみならず、金融・商工団体や「多度津町まねきねこ課」メンバー（町役場の若手職員と町民で構成）等を交え、「交流人口の増加」に向けて、今後多度津町がとるべき方策についてワークショップを実施した。

### 2. 多度津町の分析結果

#### <人口>

- 多度津町の人口は、転入超過による社会増（2011～2015年）と出生数の減少・死亡数増加による自然減により、全体としては減少傾向にある。
- 日本人は自然減・社会減の傾向にあり、外国人は社会増を続けている。
- 高校卒業後の進学・就職期（15～19歳⇒20～24歳）に人口が町外に流出し、その後の就職期（20～24歳⇒25～29歳）で流入の傾向が見られる。流入の人数は増加傾向にある。

#### <地域経済・産業>

- 地域経済循環率は86.8%であり、その他支出（域内産業の移輸出入収支＋政府支出）107億円の域外流出が、地域経済循環率を低下させる最大の要因となっている。
- 多度津町の産業構造は第二次産業を主体としているものの、一人当たりの付加価値額は全国順位でやや下(993位/1741自治体)となっている。
- 「輸送用機械」「金属製品」「電気機械」「一般機械」など、製造業が地域外から外貨を稼いでおり、特に「電気機械製造業」は、労働生産性や一人当たり賃金が好調に推移している有力な産業である。
- 「小売業」「対個人サービス業」等の域内市場産業で財・サービスの需要が域外に流出している。

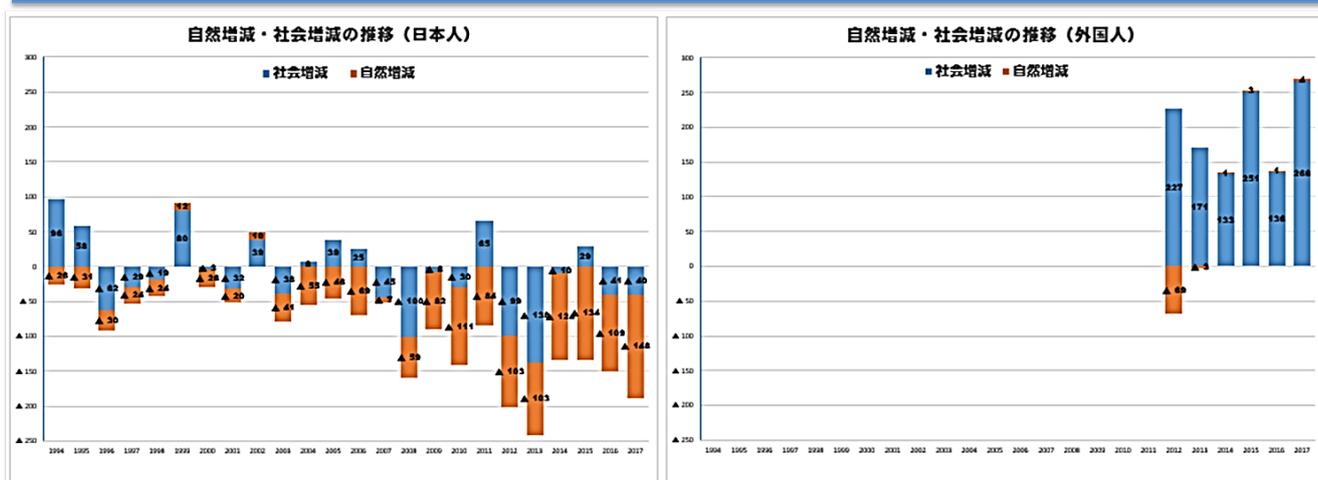
### ＜人の動き＞

- （男性）平日の日中における滞在人口は、国勢調査の人口を上回っており、通勤・通学等による町内への流入が確認できる。休日の昼以降は滞在人口が減少しており、町外への流出が見られる。
- （女性）平日・休日ともに、滞在人口が地域外へ流出する傾向が見られるが、特に14時ごろ、20歳台の若い女性の流出が顕著である。
- 目的地検索では観光スポット数・検索回数ともに少なく、宿泊施設もほとんどないことから、ただちに観光に取り組むことは難しい。

### ＜地方創生の取り組み＞

- 多度津町を町外にPRする「タウンプロモーション事業」の一環として、若手職員と民間メンバーから構成される“多度津町まねきねこ課”を組織している。

## 人口増減(日本人・外国人) 多度津町



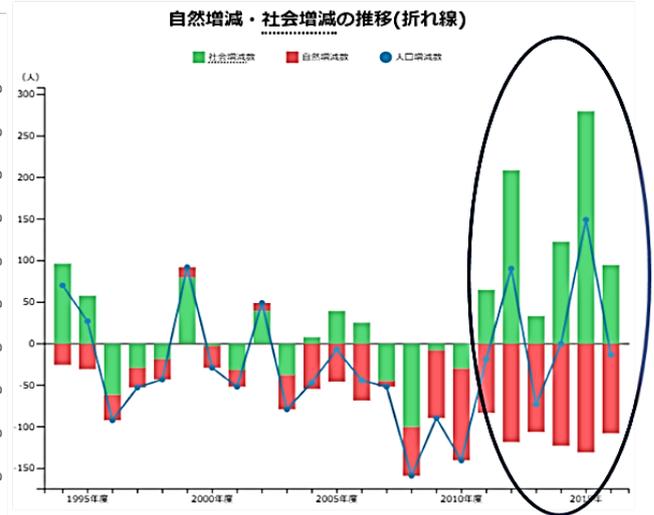
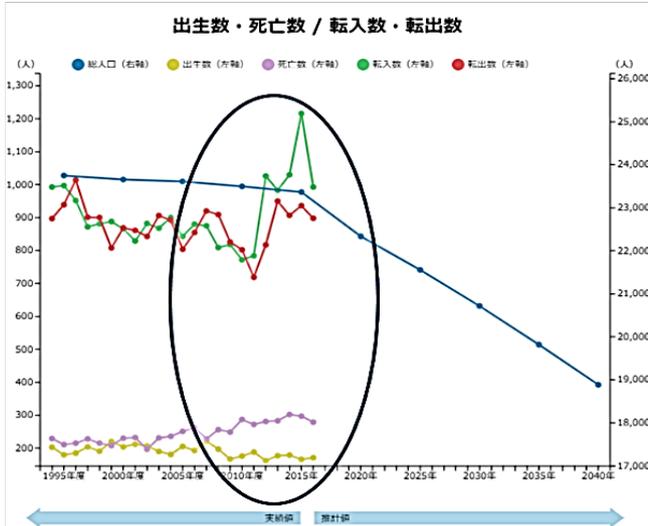
平成24年7月の住民基本台帳法改正により、外国人が住民基本台帳の登録対象に



人口増減(自然増減・社会増減)を日本人・外国人別に見てみる

- 日本人ベース(左図)では社会人口は直近でもほぼ減少となっている。
- 外国人ベース(右図)で見ると、社会増減では大幅に増加となっており、全体で社会人口が増加している要因は、外国人によるものであることがわかる。

# 人口増減

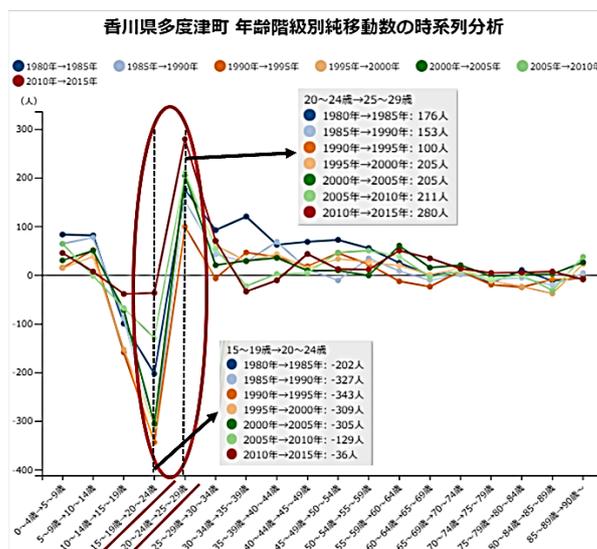


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」※2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。

➤ 人口増減をしてみると、直近(2011~2015年まで)では社会増減では転入が転出を上回る状態が続いており増加となっている。自然増減では、2007年度以降出生数が減少し死亡数が増加している傾向のため、減少が続いている。

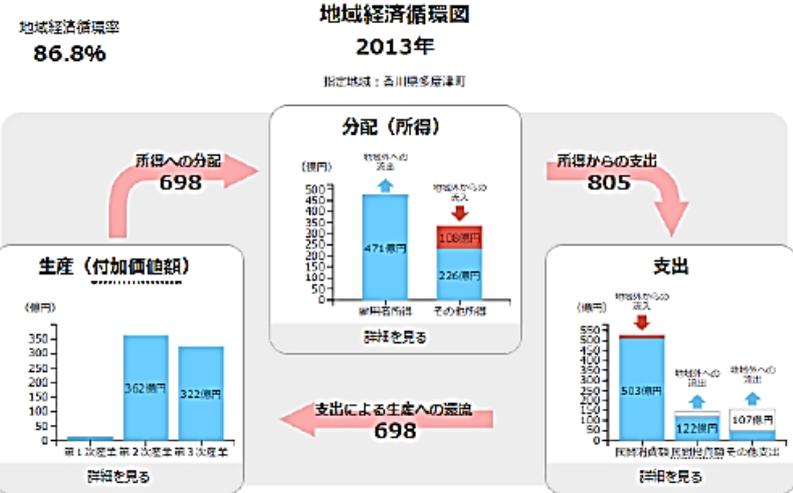
## 社会人口増減一年齢階級別純移動数の時系列分析



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

➤ 15~19歳⇒20~24歳(高校卒業後、就職・進学タイミング)で一旦地域外に人口が流出し、20~24歳⇒25~29歳(大学・専門学校等卒業後の就職タイミング)で人口が流入しており、年を追う毎に戻り幅が大きくなっている。

地域経済循環図



付加価値額（一人当たり）  
2013年

指定地域：香川県多度津町

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額（一人当たり）	209万円	680万円	633万円
付加価値額（順位）	855位	993位	1,053位

所得（一人当たり）  
2013年

指定地域：香川県多度津町

	雇用者所得	其他所得
所得（一人当たり）	418万円	141万円
所得（順位）	720位	1,378位

【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

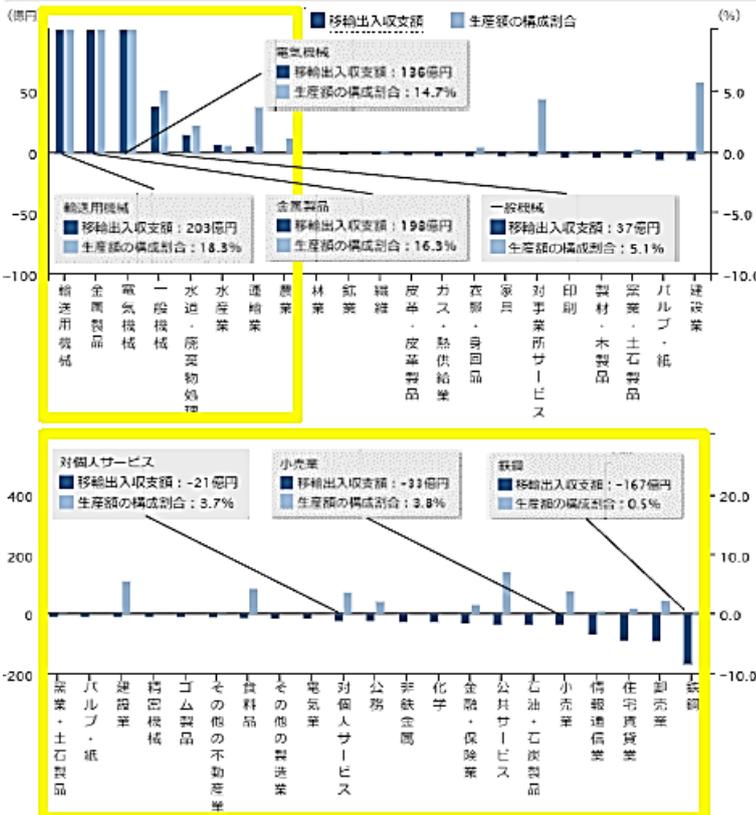
- 「生産」では、2次産業が3次産業を上回っており製造業の盛んな地域であることがわかるが、2次産業の一人当たりの付加価値額の全国順位(1,741自治体で993位)はやや下、相対的に3次産業の付加価値額が低い。
- 「所得」では雇用者所得が418万円で全国順位720位と平均よりは高い。
- 「支出」では“其他支出(域内産業の移出入収支+政府支出)”で所得が107億円域外に流出しており、地域経済循環率が低下する最大の要因となっている。

支出流出率  
2013年

指定地域：香川県多度津町

	民間消費	民間投資	其他支出
支出流出率	4.3%	-15.0%	-67.4%
支出流出率（順位）	648位	759位	857位

2013年 移輸出入収支額（産業別）



(域内産業の財・サービスの)移輸出入収支額  
＝(移出＋輸出)－(移入＋輸入)

移輸出入収支額がプラスの産業  
⇒域内需要に留まらず域外に財・サービスを販売し外貨を獲得している産業

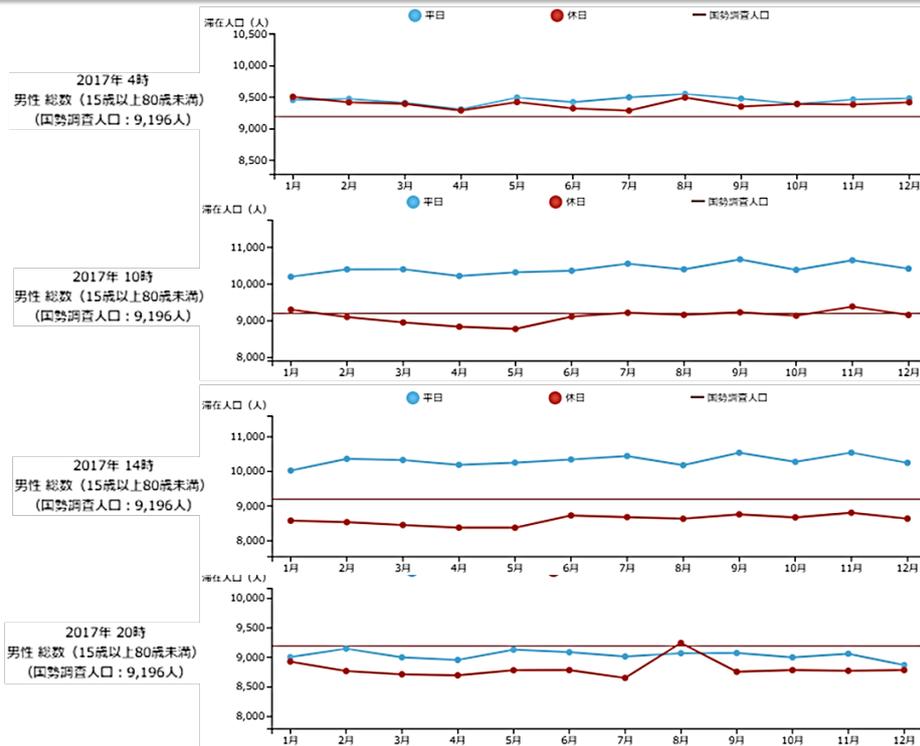
移輸出入収支額がマイナスの産業  
⇒域内需要に対応できず域外から財・サービスを購入し所得が域外に流出している産業 (原因)

- 域内企業に供給能力がない
- or
- 域外企業との競争に負けている

- 「輸送用機械」、「金属製品」「電気機械」「一般機械」等、製造業が地域外から外貨を稼いでいる。
- 地域外から財・サービスに最も頼っている産業は、「鉄鋼」で167億円域外へ流出。「輸送用機械」「金属製品」の(中間財)仕入れ先(川上産業)で域内需要に対応できていない。
- 「小売業」「対個人サービス」といった域内市場産業でも財・サービスが域外に流出。

【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

## 2017年 滞在人口 月別推移(4・10・14・20時、男性) ※推計値

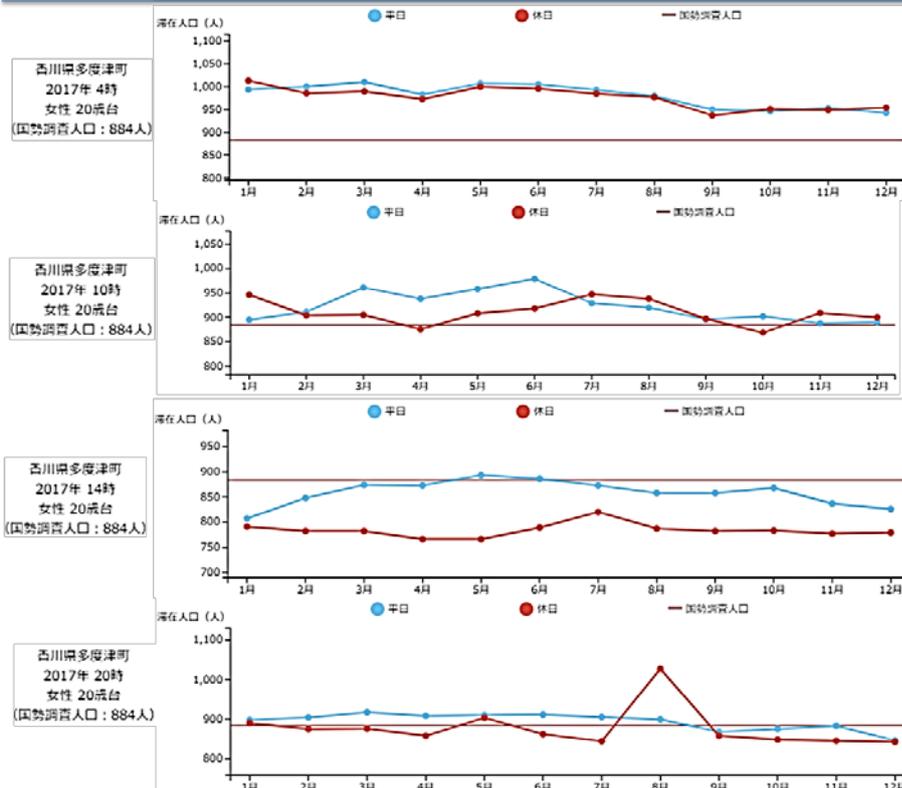


※4時＝就寝時

【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」

- 平日では、日中の滞在人口は人口(国勢調査)より多い ⇒ 通勤・通学等で地域外より流入していると思われる。
- 休日では、10時までの滞在人口はほぼ人口(国勢調査)、14時・20時台は滞在人口が減少している。

## 2017年 滞在人口 月別推移(女性、20歳台) ※推計値

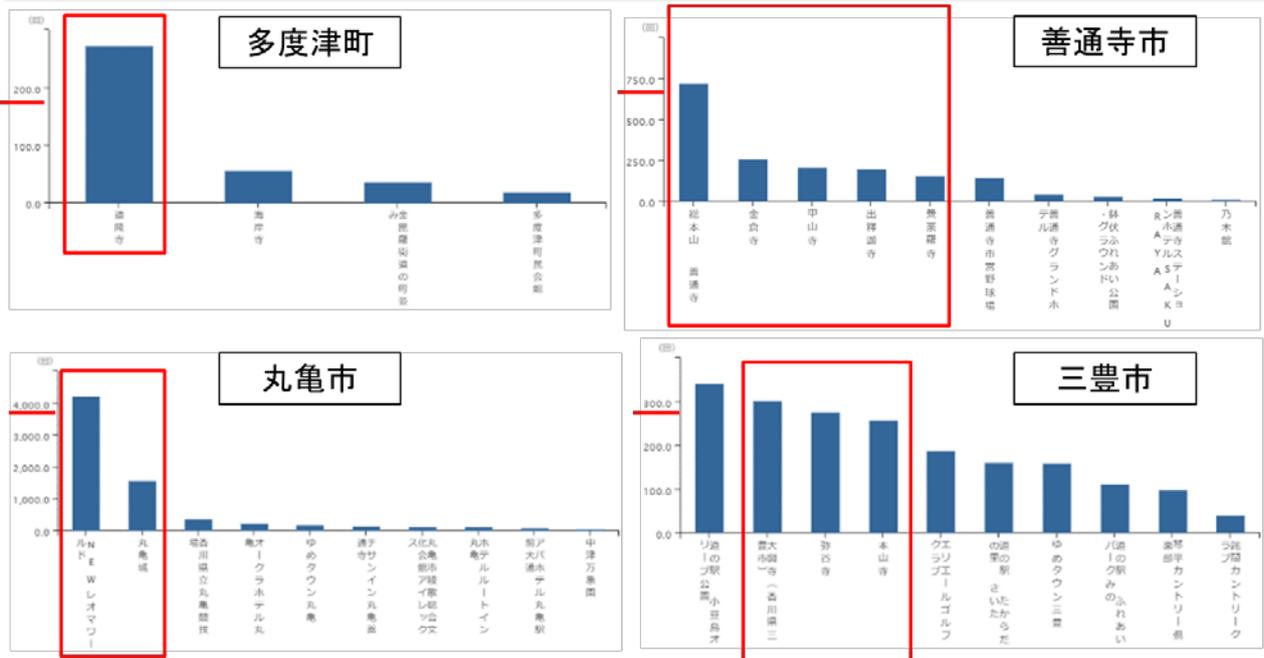


※4時＝就寝時

- 4時(就寝時)の滞在人口(推計値)は国勢調査人口(884人)とややかい離しており、約970人。
- 平日の日中は、月により変動があるが、100～200人くらい減少している。通勤・通学者が100人程度か。
- 休日は14時台になると、年間を通して800人程度で推移。滞在人口が4時(就寝時)と比べ20～25%減少。
- 8月休日の20時に1,000人超と増加している。花火大会(たどつ夏祭り)の日時と符合する。

【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」

## 2016年 経路検索ランキング(多度津町、周辺地域)



【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

- 多度津町では、「道隆寺(四国八十八カ所霊場 第77番札所)」が多いが、他は年間100回未満、スポットも少ない。「桃陵公園」はなし。
- 丸亀市は「レオマワールド」「丸亀城」が1,000回超、善通寺は1~5位までがお寺、三豊市もお寺が上位を占めている。
- 多度津町は検索回数、スポット数ともに周辺地域と比較して少ない。

46



# タウンプロモーション事業

コンセプト

たどりつく多度津



コンセプト  
ロゴ



まねきねこ課  
ロゴ

### 3. 意見交換の内容：多度津町のまちづくり方策について

- 町内に空き家と外国人労働者が増えていると感じる。彼らとの交流機会が欲しい。
- 町内にお店が少ない。特に生活用品や人生に豊かさを与えるものが欲しい。子育ての観点からは、公園や図書館など、文化・芸術ゆたかな環境を整えてほしい。
- 女性が住みたいまちは、雰囲気がおしゃれで、おいしい食べ物や友達を連れていけるようなカフェなど、自慢できる店があるまち。男性に比べ、女性が一回のランチに使う金額の平均は3倍の開きがある。お金を動かせる世代の女性が魅力を感じる店づくりが必要。
- 町の中で魅力の有無を探すのではなく、空き店舗を活用した出店などで、まちに魅力を創出していくことが必要。
- 町内に空き家は多いが、それぞれの建物は事業を行うには大きすぎてコストがかかる。
- まちづくりには、皆が同じ方向を向いて取り組めるようにするためのシンボルが必要。
- 少林寺の道場は文化的価値のある建物であり、キラーコンテンツ。ストーリーを説明しながら見学してもらおうと、大変好評。見学した人が次の知人に紹介するなど好循環が生まれている。
- 地域の団体にはそれぞれの思いやビジョン、やりたいことがたくさんある。ニーズ分析で需要をつかみ、彼らをサポートすることが必要。
- イベントの開催もそれ単体ではなく、町内全体でストーリーをもって一丸となった取り組みが必要。
- 町内に宿泊施設がなく、大規模な駐車場もないため、一定以上の規模のイベントになると、宿泊客は、隣接する丸亀市に流れてしまっている。宿泊と飲食が同時にできると便利。
- 地域活性化には若者とよそ者が必要。多度津町では始動力を持つ彼らが既に動いている。そこに住む人が面白いから、さらに面白い人が集まる。
- ここにしかないコンテンツ、企画が地域の魅力をぐっと引き上げる。

### 4. 施策提案：若者・女性目線での「魅力的な」まちづくり

- 多度津町が抱える課題を解決するための方向性
  - ◎人口減少による税収減、高齢化に備え、町民所得の向上や地域コミュニティ機能の強化
  - ◎生活面での利便性向上のため、町内で日用品や個人サービスが賄える環境整備
  - ◎休日の町内滞在人口増加のため、若い女性が「行ってみたい」、「住んでみたい」と思うまちづくりや町内の魅力等の情報発信
- 多度津町を盛り上げようと活動する団体が、各々の強みを活かし、お互いの弱みを補い合いながら地域の課題解決を目指す横断的な組織「多度津町まちづくり公社（仮称）」の設立を目指し、地域の滞在人口増加と市域資源を活用した外貨獲得に取り組む。

以上